

ブロッカー軍団IVマシンブラスター

『ブロッカー軍団IVマシンブラスター』（ブロッカーぐんだんマシンブラスター）は、1976年7月5日から1977年3月28日までフジテレビ系列で毎週月曜日19時から19時30分に放送されたロボットアニメである。日本アニメーションと葦プロダクションの共同製作。全38話。日本国外における本作の呼称は Astrorobot または Astro Robot であり、この題にて海外での展開が行われている。

【作品の特徴】

日本アニメーション初のオリジナルロボットアニメ。実際の製作はタツノコプロから独立したばかりの葦プロダクションが担当している。他のロボットアニメとの差別化を図ろうとした意欲的な取り組みは随所に見られ、「主役格の人型ロボが複数登場する」「円月廻転などのブロッカー陣形を駆使して戦う」など特徴的な設定、演出がなされている。しかし大枠においては、製作の葦プロが関わっていたタツノコプロ作品に似ており、敵キャラのデザインが『タイムボカン』シリーズの悪役を彷彿とさせる、敵軍団が用いる固有のかけ声が『新造人間キャシャーン』などの軍団員のかけ声を連想させるなど、旧来のアニメ作品と大きくかけ離れるものではなかった。「番組宣伝用セルなどに何度も用いられた騎馬戦のようなブロッカー陣形は、本編では一度も使われなかった」「敵の熾烈な攻撃は既に始まっているのにパイロットの4人のうち1人しかおらず、慌てて探す（第1話）」「主人公が地回りやくざの天井組に殴り込むだけで、ロボットが一切出てこない（第24話）」「『敵を追い詰めて滅ぼす』最終決戦が敵側視点から描かれ、『追い詰められ、滅ぼされていく』まったく救いのない展開となる（第38話）」など、制作側の不手際や演出が本来の意図とは違った受け止められかたをしたために、カルトな作品として記憶されることもしばしばある。また、エンディングの映像が途中で一部変更されている。放送期間中、一峰大二による漫画版が秋田書店の『冒険王』に連載された。2010年6月20日、マンガショップからこの漫画版の単行本（ISBN 978-4-7759-1385-7）が発売された。

【ストーリー】

海底帝国モグールの侵略に対し、由利博士はボスパルダーク4大ロボを完成させる。エレパス（超能力）の持ち主にしかそれらを動かさないため、メンバーが選抜された。少年院出身の不良少年・飛鳥天平はその高いエレパス能力を認められ、モグールと戦うことになる。だが、この戦いが天平にとっては宿命と言えるものであることを、彼自身はまだ知る由もなかった。

【ブロッカー軍団】

海底帝国モグールによる侵略を迎え撃つために由利博士が建造した4体のロボットのこと。それぞれのロボットはマシンブラスターと呼ばれ、搭乗者の持つ超能力「エレパス」で戦闘力が決まる。また、モグール帝国の脅威から地上人類を守る（ブロック）戦力としても呼称されることがある。アストロ母艦基地を中心としたその兵力は2万人以上とされる。戦闘時には「燃える正義の」（石田）「怒りを込めて」（ビリー）「世界の平和の」（仁太）「盾となる」（天平）と叫んだ後、全員で「マシンブラスターここにあり！」と名乗りを上げる（人数が3人以下の時は足りないメンバーの台詞を他のメンバーで叫ぶ）。この為に天平が一度だけだが、口上を一人で通して行った事がある。なお、この名乗り口上はモグール軍にとっては脅威であり、一般兵のみならずゴロスキーやザンギャック果てはヘルクイーンやヘルサンドラでさえもこの名乗り口上を聞くと怯える事があった。基本設計は北条博士の手になるが、その元は「ノストラ・メモ」なる古文書にあった「エレパス」に関する情報である。由利博士は北条博士から受け取ったこの古文書の解析結果情報とロボットの基本設計図で4体を完成、パイロットとなるエレパス能力者を特別捜査班に探させていた。コクピットになる小型戦闘機はフリーダムI~IVの名前を持ち、エレパスシステムを起動し制御可能とする際に、「フリーダムI、II、III、IV、セットイン」と各機へ指示する。この際、各人は固有のエレパス発動ポーズを取る。その後"OPEN"ボタンでカタパルトハッチを開放・発進する。フリーダムの武装は内蔵の小型速射ミサイルだが、その火力はI18門>II16門>III&IV各2門と門数が減る上、Iの主翼ミサイルはその射出方向[注 2]から合体後にはロックされている（サンダイオーとボスパルダーク合体後にはフリーダムのミサイルの使用は認められない）。なお基本操縦技術及び各機操縦方法は第1話にて「エレパス記憶装置」で検査中に刷り込まれている。第11話でカイブッダー・ヘスタードと地獄要塞ヘルグライドに叩きのめされたが、第12話で故・石田博士の増幅理論"科学式メソッドXO-1"入手前の由利博士の手で強化された際、パイロット四人のヘルメットに変化が生じ、シールドが付きイヤパッド部の形状が変化しアンテナが伸びている。また、明言されていないが強化計画は入手後に適用されているらしく、12話のメソッドXO-1以外にスサーナ博士に依頼されていた再強化も30話以降で行われていた模様。この為に終盤では各人のエレパス稼働限界時間が等しく20分程度となった（当初エレパス稼働限界は天平でも長くても20分、通常は15分が限度とされていた）。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



【ボスパルダーク】

飛鳥天平が搭乗。彼のエレパスが最も強力であるがゆえに、4機中最も戦闘力が高い。機体色は赤と青と白。コードネームはブロッカー4。頭部がフリーダムIV（IVはローマ数字の4）と呼ばれる小型機に分離する。フリーダムIVは下部にボスパルダークの顔面を折りたたんで装備しており、分離後の本体には後頭部のみが残る。それゆえに顔は空洞である。顔面を展開し、後頭部部分の切り欠きに合わせるように合体する。身長25メートル、重量110トンとロボレスと同じサイズであるが、こちらはいわば斬り込み隊長としての位置付けがなされている先手必勝型の武装が施されている。エレパスで動き、活動限界は15~20分程度。「ボス」と名づけられているが、リーダー機ではない。なお、試験機としては最初に完成した機体であることが第35話に明らかとなった。

ブロッカー軍団IVマシンブラスター 16年

【ロボクレス】

石田巖介が搭乗。コードネーム・ブロッカー1と呼ばれるリーダー機。機体色は青と黄色と白。頭部がフリーダムI (Iはローマ数字の1) という小型機に分離する。合体時には頸部に機首から合体し、垂直尾翼は格納する。リーダー機らしく大きな角が特徴。武装は接近戦を考慮したものとなっているが、武装の性能は攻防に対してバランスの取れた平衡型。身長25メートル、重量110トン。エレパスで動くが、生身の人間の超能力を動力としているのでおよそ15分間で行動不能に陥る(前述の通り強化後には天平と同程度にまで延長されている)。

【ブロッカー軍団】

海底帝国モグールによる侵略を迎え撃つために由利博士が建造した4体のロボットのこと。それぞれのロボットはマシンブラスターと呼ばれ、搭乗者の持つ超能力「エレパス」で戦闘力が決まる。また、モグール帝国の脅威から地上人類を守る(ブロック)戦力としても呼称されることがある。アストロ母艦基地を中心としたその兵力は2万人以上とされる。戦闘時には「燃える正義の」(石田)「怒りを込めて」(ピリー)「世界の平和の」(仁太)「盾となる」(天平)と叫んだ後、全員で「マシンブラスターここにあり!」と名乗りを上げる(人数が3人以下の時は足りないメンバーの台詞を他のメンバーで叫ぶ)。この為に天平が一度だけだが、口上を一人で通して行った事がある。なお、この名乗り口上はモグール軍にとっては脅威であり、一般兵のみならずゴロスキーやザンギャック果てはヘルクイーンやヘルサンドラでさえもこの名乗り口上を聞くと怯える事があった。基本設計は北条博士の手になるが、その元は「ノストラ・メモ」なる古文書にあった「エレパス」に関する情報である。由利博士は北条博士から受け取ったこの古文書の解析結果情報とロボットの基本設計図で4体を完成、パイロットとなるエレパス能力者を特別捜査班に探させていた。コクピッドになる小型戦闘機はフリーダムI~IVの名前を持ち、エレパスシステムを起動し制御可能とする際に、「フリーダムI、II、III、IV、セットイン」と各機へ指示する。この際、各人は固有のエレパス発動ポーズを取る。その後"OPEN"ボタンでカタパルトハッチを開放・発進する。フリーダムの武装は内蔵の小型速射ミサイルだが、その火力はI8門>II6門>III&IV各2門と門数が減る上、Iの主翼ミサイルはその射出方向[注2]から合体後にはロックされている(サンダイオーとボスパルダーク合体後にはフリーダムのミサイルの使用は認められない)。なお基本操縦技術及び各機操縦方法は第1話にて「エレパス記憶装置」で検査中に刷り込まれている。第11話でカイブッター・ヘスターと地獄要塞ヘルグライドに叩きのめされたが、第12話で故・石田博士の増幅理論"科学式メソッドXO-1"入手前の由利博士の手で強化された際、パイロット四人のヘルメットに変化が生じ、シールドが付きイヤパッド部の形状が変化しアンテナが伸びている。また、明言されていないが強化計画は入手後に適用されているらしく、12話のメソッドXO-1以外にスサーナ博士に依頼されていた再強化も30話以降で行われていた模様。この為に終盤では各人のエレパス稼働限界時間が等しく20分程度となった(当初エレパス稼働限界は天平でも長くても20分、通常は15分が限度とされていた)。

【ブロッカー陣形】

4体のマシンブラスターは協力して「ブロッカー陣形」と呼ばれる必殺技を発動する。

円月廻転 - ブロッカー陣形の一つであり、主題歌の一番に歌われているため(二番は一文字崩し、三番は不動組み)、もっとも有名な技。マシンブラスターが互いの脚をつかんで輪となり、回転しながら敵に体当たりを行なうもの。バリエーションとして変形円月廻転がある。脚同士や手同士でも円月廻転と称することから、とにかく4機が密着して回転を行えば円月廻転となるらしい。

一文字崩し - ブロッカー陣形の一つ。ロボクレス・ブルシーザー・サンダイオー・ボスパルダークの順で一列縦隊に並び、揺動しながら敵を待ち構える。敵が突撃してきたとたんに散り、敵を取り囲んで攻撃するもの。バリエーションとして、敵の内部に突撃する幻影一文字崩し、一直線のまま移動攻撃する流れ一文字崩しがある。

不動組み - ブロッカー陣形の一つ。マシンブラスター4機が背中を向け合って腕を組み、その状態で回転する。その際に両足を水平に上げて敵を蹴り倒す。不動組みという名に反して自ら動く(ただし相対位置は変わらない)陣形である。機体が少なくとも行なうことがあり、3機で行なった場合には不動組み3(スリー)と呼ぶ。最終決戦時にはこれを用いて冰山攻撃を退けている。

武者固め - ブロッカー陣形の一つ。左にブルシーザー、下にロボクレス、右にサンダイオーと並び、ロボクレスの上にボスパルダークが位置する。この十文字の体勢から鳥形のエレパス波をまとめて体当たりを行なう。媒体によっては騎馬戦のような地上戦向けの陣形として描かれており、そちらが本来の形態であると思われるが、アニメ本編では空中戦と水中戦が全戦闘シーンの9割を占め、地上戦自体が殆ど描かれておらず未登場。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

ブロッカー軍団IVマシンガンブラスター 1976年



【飛鳥天平 (あすか てんぺい)】声 - 安原義人
 本作の主人公。天涯孤独の身の上で親の愛情を知らずに育ち、不良少年として少年院に収監されていたところを、由利博士によって拉致同然の手段でフリーダム4、ボスバルダーのパイロットにさせられる。当初は反発ばかりしてモグールとの戦いにも積極的ではなかったが、第2話で親と慕っていた少年院の舎監である通称・鬼監 (おにかん) をモグールに殺されたことを機にモグール軍団との戦いを決意する。表面上は刺々しい物言いをして無愛想に振舞ってはいるが、本当は心の優しい人物。実は300年前、モグールを脱走して地球人の側についた科学者ノストラの子孫であるため、ブロッカー軍団中、群を抜いたエレパス能力を持つ。当初は自身の出生の秘密を知らなかった。モグール人の血を継いでいるため、強い陽射しには弱い。

【石田巖介 (いしだ げんすけ)】声 - 玄田哲章
 ブロッカー軍団のリーダーでフリーダム1、ロボレスのパイロット。北条ユカの父・北条博士の助手だったが、北条博士夫妻がモグールの手によって殺された時、ユカを連れて逃げ延びた。頑健な肉体と優れた頭脳を併せ持つが、その反面生真面目すぎて融通が利かず、人情の機微に疎い面がある。ひねくれ者である天平の言葉の裏が読めず、額面通りに受け取って激怒したり、命令に従わず勝手な行動をとる天平を叱責し、かえって反発を招くことが多い。口癖は「貴様ー!」「命令だ!」。実は父親も科学者で、マシンブラスター強化理論"科学式メソッドXO-1"を確立していた。それを人知れず受け継いでいた母親を第12話で失う事となる。

【ビリー剣城 (ビリーけんじょう)】声 - 津嘉山正種
 ドライブ中を拉致されてフリーダム2、ブルシーザーのパイロットにさせられた金髪青眼の青年。13年前にバレリー島沖で父親が消息不明になっている。天平のあしらいが不得意な巖介と異なり、理を説き、情に訴えて天平を戦地に導くなど筋の通った知性の持ち主。元々カーレーサーで、作中で一度レースに出場した事もあった。

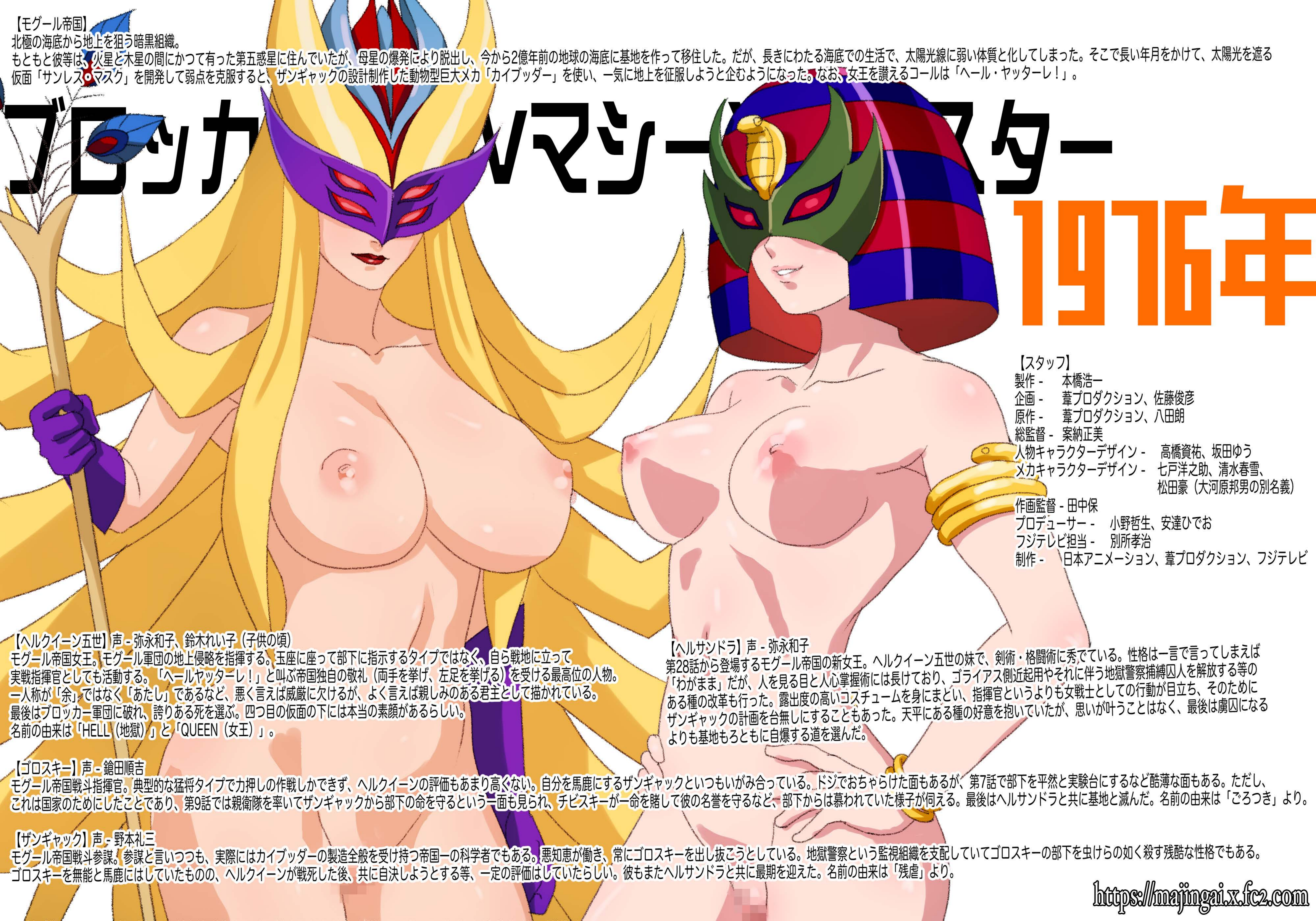
【早見仁太 (はやみ じんた)】声 - つかせのりこ
 天平と同じく、少年院で拉致されてフリーダム3、サンダイオーのパイロットにされた。天平のことを「兄い」と呼んで慕っている。普段は渡世人の真似事をして着物にサラシを巻き、禪を着用している。生き別れの母親がおり、一日違いで会うことができなかった。関西出身で常に関西弁で喋る。

【北条ユカ (ほうじょう ユカ)】声 - 麻上洋子
 故・北条博士の娘。宇宙考古学者であり、モグール人の存在と侵略を予想して彼らと戦うロボット製造の資料を由利博士に託した父を、母と共にモグール人の襲撃によって殺されたため、モグール帝国に対して深い憎悪を抱いている。この時、ユカ自身は石田に助けられて難を逃れた。天平がモグール人の子孫であると知ると、モグール人にとって致命的な武器であるサンレス銃で天平を撃ってしまう。後にこの行為を後悔して、天平の良き理解者になろうとする。

【由利元来 (ゆり げんらい)】声 - 加藤精三
 ブロッカー軍団を作り上げた科学者。冷静沉着でかつ豪胆な人物。ユカの父である北条博士とは親友同士であり、彼からモグール帝国に対抗できるロボット・マシンブラスターに関わる資料を託されていた。ブロッカー軍団の基地であるアストロ母艦の総責任者でもあり、対モグール戦略の最高司令官でもある。アストロ基地が破壊された際、瓦礫の下敷きになって下半身不随となる。その後は電動車椅子に乗って登場する。名前の由来はユリ・ゲラー。

【ピコット】声 - 小宮和枝
 ブロッカー基地のマスコットロボット。自称「天平のお目付け役」。口癖は「~だコット」。
 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

話数	サブタイトル	脚本	コンテ	演出
1話	運命の大あらし!	八田朗	八尋旭	八尋旭
2話	モグール帝国の魔の手	高久進	八尋旭	八尋旭
3話	哀しみのサンレス銃	武者造	八尋旭	安濃高志
4話	唸れ! 円月廻転	小山高男	八尋旭	安濃高志
5話	ビリー剣城 危機一髪!	三宅直子	高橋資祐	安濃高志
6話	燃えるエレパス我が心	高久進	八尋旭	八尋旭
7話	おとこ仁太よ! サンダイオー	田口章一	八尋旭	三家本泰美
8話	飛ベピコット! 傷だらけの挑戦	吉川惣司	八尋旭	安濃高志
9話	地獄の空母! ヘルグライド (前編)	八田朗	坂田ゆう	坂田ゆう
10話	地獄の空母! ヘルグライド (後編)	八田礼	八尋旭	安濃高志
11話	戦え! 涙の河を越えて			
12話	友情よ戦火に燃える!	小川映一	八尋旭	安濃高志
13話	起て天平! 宿命の鎖を切れ!	高久進	坂田ゆう	三家本泰美
14話	裏切りのバラード	鈴木良武	八尋旭	安濃高志
15話	見せるピコット! ロボット魂	吉川惣司	八尋旭	八尋旭
16話	命をかける! 志摩の海に!	新井光	高橋資祐	八尋旭
17話	秘 (まるひ) 指令! たそがれの潜入	八田朗	坂田ゆう	安濃高志
18話	怒りの海に散った恋	新井光	八尋旭	八尋旭
19話	砂漠は燃えているか	八田礼	八尋旭	安濃高志
20話	死の吹雪! 北極圏を突っ走れ	高久進	八尋旭	八尋旭
21話	愛と憎しみをこえて	武者造	八尋旭	安濃高志
22話	逆襲モグール軍団!	武者造	八尋旭	安濃高志
23話	呪われたインカの秘薬	新井光	八尋旭	八尋旭
24話	きけ! 戦場の子守り唄	八田朗	坂田ゆう	安濃高志
25話	明日につなげ! 命の火	新井光	八尋旭	八尋旭
26話	ヘルキューン 地獄の栄光	山本優	八尋旭	安濃高志
27話	君よ大空に虹を見たか	山本優	八尋旭	八尋旭
28話	生と死のメロディ	山本優	八尋旭	安濃高志
29話	遥かなるマシンブラスター	山本優	八尋旭	八尋旭
30話	走れ!! 栄光のアルプスを!	新井光	八尋旭	安濃高志
31話	夕映えに踊れ!	山本優	八尋旭	八尋旭
32話	深海に賭ける夢	吉川惣司	林弘	安濃高志
33話	原生林に吼えろ!	山本優	八尋旭	八尋旭
34話	恐怖の魔仏! デスドール!	新井光	林弘	花園浩一
35話	ヘルサンドラ殴り込み!	武者造	加奈井華子	安濃高志
36話	意外! ボスバルダーの秘密	吉川惣司	林弘	井草ふしみ
37話	恐怖! 死の谷の脱走	山本優	八尋旭	案納正美
38話	死の人喰い花	山本優	林弘	安濃高志
39話	大激突! 氷海の死闘!	山本優	井草ふしみ	安濃高志



【モグール帝国】

北極の海底から地上を狙う暗黒組織。

もともと彼等は、火星と木星の間にかつて有った第五惑星に住んでいたが、母星の爆発により脱出し、今から2億年前の地球の海底に基地を作って移住した。だが、長きにわたる海底での生活で、太陽光線に弱い体質と化してしまった。そこで長い年月をかけて、太陽光を遮る仮面「サンレス・マスク」を開発して弱点を克服すると、ザンギャックの設計制作した動物型巨大メカ「カイブッター」を使い、一気に地上を征服しようと企むようになった。なお、女王を讃えるコールは「ヘール・ヤッターレ！」。

ブロッカーマン

1976年

【スタッフ】
 製作 - 本橋浩一
 企画 - 葦プロダクション、佐藤俊彦
 原作 - 葦プロダクション、八田朗
 総監督 - 案納正美
 人物キャラクターデザイン - 高橋資祐、坂田ゆう
 メカキャラクターデザイン - 七戸洋之助、清水春雪、松田豪（大河原邦男の別名義）
 作画監督 - 田中保
 プロデューサー - 小野哲生、安達ひでお
 フジテレビ担当 - 別所孝治
 制作 - 日本アニメーション、葦プロダクション、フジテレビ

【ヘルクイーン五世】声 - 弥永和子、鈴木れい子（子供の頃）
 モグール帝国女王。モグール軍団の地上侵略を指揮する。玉座に座って部下に指示するタイプではなく、自ら戦地に立って実戦指揮官としても活動する。「ヘールヤッターレ！」と叫ぶ帝国独自の敬礼（両手を挙げ、左足を挙げる）を受ける最高位の人物。一人称が「余」ではなく「あたし」であるなど、悪く言えば威厳に欠けるが、よく言えば親しみのある君主として描かれている。最後はブロッカー軍団に破れ、誇りある死を選ぶ。四つ目の仮面の下には本当の素顔があるらしい。名前の由来は「HELL（地獄）」と「QUEEN（女王）」。

【ヘルサンドラ】声 - 弥永和子
 第28話から登場するモグール帝国の新女王。ヘルクイーン五世の妹で、剣術・格闘術に秀でている。性格は一言で言ってしまうと「わがまま」だが、人を見る目と人心掌握術には長けており、ゴライアス側近起用やそれに伴う地獄警察捕縛囚人を解放する等のある種の改革も行った。露出度の高いコスチュームを身にまとい、指揮官というよりも女戦士としての行動が目立ち、そのためにザンギャックの計画を台無しにすることもあった。天平にある種の好意を抱いていたが、思いが叶うことはなく、最後は虜囚になるよりも基地もろともに自爆する道を選んだ。

【ゴロスキー】声 - 鎗田順吉
 モグール帝国戦斗指揮官。典型的な猛将タイプで力押しの作戦しかできず、ヘルクイーンの評価もあまり高くない。自分を馬鹿にするザンギャックといつもいがみ合っている。ドジでおちゃらけた面もあるが、第7話で部下を平然と実験台にするなど酷薄な面もある。ただし、これは国家のためにしたことであり、第9話では親衛隊を率いてザンギャックから部下の命を守るという一面も見られ、チビスキーが一命を賭して彼の名誉を守るなど、部下からは慕われていた様子が伺える。最後はヘルサンドラと共に基地と滅んだ。名前の由来は「ごろつき」より。

【ザンギャック】声 - 野本礼三
 モグール帝国戦斗参謀。参謀と言いつつも、実際にはカイブッターの製造全般を受け持つ帝国一の科学者でもある。悪知恵が働き、常にゴロスキーを出し抜こうとしている。地獄警察という監視組織を支配してゴロスキーの部下を虫けらの如く殺す残酷な性格でもある。ゴロスキーを無能と馬鹿にはしていたものの、ヘルクイーンが戦死した後、共に自決しようとする等、一定の評価はしていたらしい。彼もまたヘルサンドラと共に最期を迎えた。名前の由来は「残虐」より。